

遥かなる時の中で

「2年生のみなさんへ」
傑作号

本日の格言

普通の人々は時間をつぶすことに心を用い、才能ある人間は時を利用することに心を用いる。

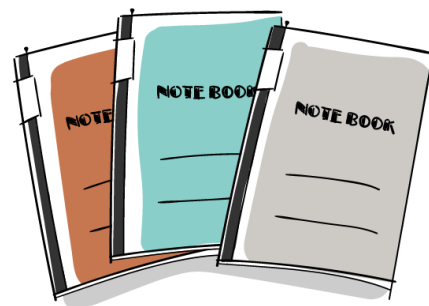
—— ショーペンハウアー

自分に合った勉強方法を探して③

先日は、通知表を渡すために久しぶりに皆さんに会うことができ、先生たちも嬉しかったです。「たくさん時間があって暇！」という人が多かったですが、それを予想して、この通信の一番上の欄には毎回「時間に関する格言」を載せています。気づいていましたか？

カメラタイプと辞書タイプが突出している Y 先生

カメラタイプと辞書タイプが飛び抜けて高い結果だった Y 先生は、色彩感覚に優れたおしゃれさんであり、書く文字も美しく、意識せずとも見やすく板書をすることができます。頭の中にアルバムのようにたくさんの映像記憶があって、同じ電車に乗り合わせただけの人の顔を覚えていることもあるそうです。



中学生時代はノートを手際よく取ることを重視していました。だから、板書が汚い先生にはいつも腹を立てていたそうです。Y 先生は「家でノートをまとめ直す時間はない」と感じ、授業中に取るノートのクオリティを高め、それをそのまま復習でも使っていたそうです。それを見ながら、覚えなくてはならない内容は別の紙に何度も書いて覚えるのが基本的な勉強方法でした。

Y 先生に学ぶ「授業ノート」術

どうすればきれいなノートを作ることができるのでしょうか。一つ目に、当たり前のことですが「丁寧に書く」ことです。復習で使うことを前提としたノートなので、未来の自分に向けて書くつもりで丁寧に書きます。

二つ目に、自分なりの「レイアウトの工夫をする」ことです。Y 先生の場合は、どの教科のノートも線で区切ってメモ欄を設けていたそうです。つまり、板書を写すスペースとメモを取るスペースを分けていました。これを応用して、英語の授業であれば英文を書く場所と日本語訳を書く場所のルールを決めておくなど、どこに何を書くのかが明確であれば、読みやすいノートになります。その際、余白が生まれてしまうこともありますが、行間が詰まっているよりもすっきりと読みやすくなるので、恐れずに余白をとっていくとよいでしょう。

三つ目に、「色使いの工夫をする」ことです。むやみに何色も使うわけではありませんが、自分で色使いのルールを決めて3色くらいは使った方がきれいにまとめられるはずです。(昔とは違って)今は色々な文房具が販売されているので、普段はペンしか使わない人も、マーカーや付箋などを試してみるとまた違った味わいがあると思います。

ファンタジータイプかつカメラタイプのS先生

S先生はファンタジータイプとカメラタイプという結果になりました。ファンタジータイプの方は頭の中で映像と言語との行き来をすることが得意です。S先生の語り口調を思い出すと、ダジャレのイメージばかりが先行してしまうのですが、他にも例え話がすごく上手で、学年集会での弁当箱の話や、風船の話などを覚えている人も多いと思います。オリジナリティがある面白い題材からでも、核心を突くメッセージにつなげることができる先生です。



S先生に学ぶ「徹底」術

そんなS先生ですが、授業中にノートをきれいにまとめることは苦手だったそうです（※Y先生のように授業中にハイクオリティなノートを作ることは簡単ではありません。カメラ&辞書タイプのY先生ならではの技と言えるでしょう）。また、勉強自体にも苦手意識があって、どうしても勉強に時間がかかってしまいましたが、諦めず、粘り強く、泥臭く続けるのがS先生流だそうです。

家庭学習では、その日の板書ノートをもう一度復習ノートに書き直していました。その際に気をつけることは、授業中にはどうしてもきれいにまとめられなかった箇所（大事なのに強調できなかった箇所や、ページの区切りが上手く合わなかった箇所など）を、要点が分かりやすいようにまとめ直すことです。色は黒と赤のみ使用していました。時間のかかる作業ですが、今になって思い返すと、この作業を通して頭の中で授業をもう一度再現していたのだと言います。「すでに分かっている」と思い込んでいた場所も、より分かるようになったそうです。テストのときは、復習ノートにどのように書いたかを思い出しながら問題を解いていました。

復習ノート作りだけでなく、問題演習を通してどんな問題が出題されるのかも確かめていました。S先生によると、野球の上達のために素振りと練習試合が両方大切であるように、コンスタントに続けていく勉強と実践を意識した勉強は、両方大切であるということでした。「石橋をたたいて渡る」という言葉がありますが、「周りの友だちだって頑張っている。だったらそれを越えるだけ努力しないと勝てない」という気持ちで、手堅く時間をかけて勉強していたそうです。

ファンタジータイプでバランスのよいO先生

O先生もファンタジータイプで、他の分野にも苦手がなく、バランスのよい結果になりました。O先生と言えばスポーツ一筋という印象が強いのですが、クラスのホワイトボードに毎日書いているメッセージからも分かるように、言葉を読み手の心にストレートに届けることができる先生で、実は(?)職員会議などでも、他の職員が納得・共感できる意見を即座に述べるができる人です。

基本的には野球ばかりの生活で、高校・大学ともに野球のスポーツ推薦で進学しました。だから、勉強にはそれほど意欲があったわけではないそうなのですが、「誰でも、いつかはやらなきゃいけないときが来る」というのが人生の教訓だそうで、教員採用試験をはじめ、その他にも自分や家族を守るために勉強をしなくてはいけない時期が必ず来るということでした。つまり、生きている限り、勉強から最後まで逃げ続けることはできないのだと感じたそうです。中学生の皆さん、「勉強なんて意味がない」というのは大きな間違いです。たしかに直接的にその知識を使う職業には就かないかもしれませんが、今から勉強しておけば大人になってからも絶対に役に立つはずですよ。

○先生に学ぶ「イメトレ」術

体育でも五教科でも同じことが言えるのですが、急に上手くなったり、急に成績が伸びたりすることはほとんどありません。何回繰り返しても全然できるようにならなかったり、上手い人でもスランプに陥ってしまったりします。そんなとき、諦めずに取り組むことも大事かもしれませんが、思い切って一旦練習から離れてみるのも一つの手です。そして、気分転換をして、それが終わったら頭の中で「イメージトレーニング」を試してみましょう。先ほどまで練習していた自分の姿と、イメージの中の理想とは何が違うのか。それを考えてみる。勉強する上でもイメージをもつことは大切です。例えば、希望の進路を叶えた自分をイメージしてみたり、しっかり机に向かって努力している自分をイメージしてみたりする。そうしたイメージを積み重ねていくことで、現実の自分もだんだんそれに近づいていくことができると思います。そして、スランプから脱して調子が上がってきたら、そのときはよいイメージを体に定着させるために、いつも以上に練習や勉強に打ち込んだ方がよいと思います。